

科目名		架構実習 II			
担当教員		上田 正義		実務授業の有無	有
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	96
授業概要、目的、授業の進め方	建築大工の技術者として基本となる道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返して基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。				
学習目標 (到達目標)	2年間の集大成として実習場に住宅軸組の加工、組立を中心に行う。今までの技術を使い木材加工をし、また、実際の現場での動きなどを体に覚えさせながら習得する。2級技能士習得のための訓練を行う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	住宅の階段の作成 ①住宅の階段の作成 (チーム作業)			方法: 作業上の注意事項の説明。大工道具を使って材料の加工方法の説明。 達成目標: 安全作業で、①の作業ができる。	
2	いろいろな仕口の製作 ①兜蟻や渡り顎			方法: 作業上の注意事項の説明。大工道具を使って材料の加工方法の説明。 達成目標: 安全管理ができており、①の作業ができる。	
3	縮小小屋組みの製作 ①京ろ組や折置組			方法: 作業上の注意事項の説明。大工道具を使って材料の加工方法の説明。 達成目標: 安全管理ができており、①の作業ができる。	
4	和室の造作 ①廻り縁や巾木、窓台や貫など			方法: 作業上の注意事項の説明。大工道具を使って材料の加工方法の説明。 達成目標: 安全管理ができており、①の作業ができる。	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			実践的な作業として行うため、確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組ませる。 知識と同時に技術を伴う内容のため、機能や管理方法を十分理解したうえで、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組み技術の習得を目指す。	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建築大工として40年実務に携わる			